

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム 城南スマイル (うらら ユニット)		
所在地	熊本県熊本市南区城南町下宮地397-2		
自己評価作成日	令和4年1月17日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市南区城南町の大型スーパーや商店街のある隈庄地区の下宮地の住宅街の一角にある開所9年目のグループホームです。地熱を利用した床暖房を完備し年間を通して心地よい空間と自然の光の中で過ごすことができるよう採光にも工夫した明るい建物になっています。コロナ禍でいろいろな面で自由にならない事の多い毎日であり入居者や家族のストレスが大いだと思いますが一人ひとりの意思を尊重および優先しできる限り自由な暮らしをしていただけるよう職員全員が努力しています。毎日聞かれている大きく元気な歌声と笑い声がいつまでも続くグループホームでありたいと思います。コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に置いてその方らしい安心安全な暮らしができるようできる限りの対応を職員一丸となって頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にあるホームは、101歳や100歳を筆頭として平均年齢も91歳という高齢化にあるが、入居して9年という経年にあってもあまり大きな変動も無く、自由な生活ぶりに職員のスキルの高さが確認され、「利用者本位・常に相手の立場になって」とする理念の実践に邁進するホームである。コロナ禍に感染予防を徹底した中で、役割のある家事活動や脳トレや歌、昔話に(五右衛門風呂)花が咲いたり、一日を通して笑い声が響き渡っている。運営推進会議を通したホームの目的と運営方針の啓発が地域の中で確固たる基盤となり、班長としての活動や地域の環境整備に一役を担う等地域の一人として活動している。コロナでの制約のある日常ではあるが、今後も職員の得意分野を生かしながら楽しい日常を支援いただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としては「利用者本位・常に相手の立場になって」を掲げています。「笑顔」「思いやり」を念頭に「自分がされて嫌な事は相手にもしない」を各職員が自覚を以て業務遂行しています。	開設時からの理念を掲示し、目にする事で意識を持ってケアに入る事としている。笑顔や思いやり等を規範として、日々のケアに反映させることを共有しており、一日を通して笑い声が響きわたるとい、笑って過す環境が作られている。また、運営推進会議の中で、ホームの目的及び運営方針を啓発している。更には理念も入れることで、職員のケア姿勢を発信いただきたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で地域の行事も中止になっておりこれまで通りにはできない状況です。本年度は下宮地の16半の班長を任せられており区費の徴収等行いました。	今年度は地域の班長として区費の徴収に地域を回り、ゴミ収集場所の掃除等地域の一員として活動している。コロナ感染症の状況次第では近くのスーパーでの買い物に入居者も出かけられていたが、感染予防対策として現在は外出を中止している状況にある。	地域の中での生活は制約もある中で、ホームとして地域の中での基盤は確立している。コロナ感染症の収束を見据え、住民との交流の再スタートへの計画等を検討され、すぐに動ける体制作りを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を随時受け付けています。コロナ禍の中でできる限り直接お会いしてアドバイスを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍にて運営推進会議の開催ができませんでしたが現場の状況を資料にして家族や地域の方、行政の方へ2か月ごとに報告しています。	今年度は書面での報告として、地域包括支援センター、婦人会副会長には送付し、区長及び民生委員には持参している。全家族には報告書と写真を添えて郵送している。地域包括支援センターからの提案により、事故事例も組み入れる等透明性のある運営体制である。	行政や地域委員からの意見や情報を得る唯一の手段でもあり、ご質問・ご意見等を出して頂く様な一筆を入れることを検討頂きたい。運営委員の中には配布後に連絡を入れてくださる方もおられるようであり、意見や提案の他、感想等を収集し、サービスに反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はささえりあ城南主催のweb会議に参加し情報交換を行っています。いろいろな情報を頂いています。	地域包括支援センター主催の会議への参加や、熊本市からのワクチン接種に向けたアンケート調査に対応している。これまではホームの職員が自主的に周辺の草刈りを行っていたが、職員で出来る範疇を超えた状況に、行政に出向き依頼したことで、除草シート設置に至る等ケアサービスのみならず、地域の環境整備に一役を担っている。今年度は、地域包括の企画による城南地区4グループホームでの連絡会が発足している。また、介護保険更新に出向くとともに、調査に立ち会い情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し職員に周知しています。尚、勉強会も行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会として事例検討や勉強会を行い、入居者個々の帰宅願望や外出欲求等を把握し、一緒にホームの駐車場まで出かけ気分転換に図っている。転倒の危険性(職員の早期察知や転倒回避)として家族への説明と承諾を得てセンサーマットや人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催しており職員それぞれが虐待のない介護の重要性を再確認しています。職員それぞれがお互いの行動や言動に気をかけており注意しあっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用中の入居者と成年後見人と実際に関わることで制度を学ぶ大切な機会となっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけゆっくりわかりやすい言葉で丁寧な説明を心がけ不安なく安心して入居していただけるような対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者はもちろん家族からも意見、要望、苦情などなんでも言いやすい雰囲気づくりに職員全員が取り組み、訴えには傾聴して問題解決に務めています。対応については職員全員に周知しています。	これまでは敬老会時に家族会を開催していたがコロナ禍により中止している。緊急時やまん延防止措置期間中は面会をお断りしているが、状況によっては玄関先の短時間対面としている。この状況に、特に家族への電話連絡や写真での状況発信により不安軽減に努め、家族からは面会に対する問い合わせ等が出されている。入居者には日々の関わりの中で聞き取りしている。	高齢化する入居者にとっては家族と対面出来る日を心待ちにされていることと思われ、コロナ感染症に目処が付けば、家族との交流会等検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は日ごろから傾聴に努めできることはできる限り反映に努めています。	これまで行ってきた一堂に会する会議は開催する状況に無く、申し送りを徹底している。また、各ユニットの管理者が日々ケアに入りながら職員の意見や提案等を収集し、備品等大きなものになると管理者を通じて法人へ上申する体制としている。施設長や法人の次長などが入居者の様子確認に訪問し、職員の悩み等の相談に対応され、職員の勤務歴に働きやすい環境である事が表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い職員の思い、意見、アイデア、努力や実績を確認知り得ることでやりがいのある業務遂行ができるよう整備に努めコロナ禍でもありモチベーションが保てるよう声掛け、傾聴に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にて開催難しいことが多く不定期ではですが勉強会を行い日々の業務に活かしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ城南町のグループホーム管理者の交流を図る機会をささえりあの協力にて得ることができ意見交換や情報交換の場となっています。お互い相談したりアドバイスを頂いたり良好な関係づくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の際、不安や要望を遠慮なく話せるように相手の立場になって傾聴に努めています。安心して入居していただけるよう家族やケアマネジャー等と連携し対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろん家族がどのような不安や要望をもっておられるか傾聴し対応に努めています。話しやすく親しみのある対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時はできるだけその方の情報収集に努め本人、家族の要望を踏まえてサービスの見極めを行い法人全体でのサービスを視野に入れた対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな暮らしを目指し本人の意思を第一に考えできるだけ自由に過ごしていただけるよう心がけています。できることはやって頂ける限り見守りの支援を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が入居前と同じように継続できるよう情報交換に努めています。現在はコロナ禍であり面会制限があるなど自由にならないことが多くあると思いますが様子を電話にて伝えるなど情報交換、コミュニケーションに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	両親や兄弟、近所の方等との昔の思い出や友人の話などには傾聴に努めています。最近ではコロナ禍にてままならないことが多い状況です。	これまでであれば馴染みの場所へ出かけていたが、コロナ禍で家族との窓越し面会等により関わりを継続している。入居者の中には定期的に昔からの友人から手紙が届いたり、年賀状の送付、初日の出に手を合わせる等今できうる最大限の支援に努めている。豆まきや雛祭りでの祝い膳等年間を通して慣習を継続させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	両ユニット間を互いに行ったり来たりされ 過ぎされています。不穏だったのに隣の ユニットで過ぎすことで落ち着かれること があります。時々もめごともありますが入 居者それぞれが教えたり教えられたりの 支え合いの暮らしができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された場合も医療連携室や家 族と情報交換行い必要であれば法人全 体のサービスも視野に入れて支援してい ます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりとしっかり関わりを持ち信頼関 係づくりに努力するとともに傾聴に努めそ の方の思いや希望をできる限り把握でき るよう努めている。困難な場合はできるだ け本人の立場になって関わりを持ち雰 囲気やしぐさから本人の思いをできる限り感 じ取れるよう努めています。	入居者の一人ひとりの思いや暮らし方の意 向は、日々の会話で把握しており、「前は○ ○に行っていた、○○に行きたい」や食べたい もの等を把握している。特に1対1の入浴の 時間は話も弾むようである。また、意思疎通 や発語困難等把握が難しい方には笑いを判 断材料やバロメーターと捉え、話が理解出来 ない状況には、表情やしぐさ等から推察しケ アに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	一人ひとりの生活歴や趣味、生活環境等 の情報収集しスタッフ間で共有するように 努めています。入居後も本人は勿論家族 からも常に情報収集行い共有に努めてい ます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居前の生活を踏まえ日々の暮らしを観 察することでその方のできることできな いことをしっかりと見極め自立支援に努めて います。日々の様子、健康観察から体調 変化を把握し早めの対応に努めていま す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況や訴えおよび家族の意見要望を踏まえその時にあった介護計画を立案しています。面会時や電話などで家族の意見を聞くようにしています。	入居から1ヶ月程度は本人をs知る期間として暫定プランを作成し、管理者・ケアマネジャーや担当職員等と話し合い、本人・家族の意向を基にした正式なプランを作成している。以降3ヵ月毎のアセスメントにより継続可否を見極めるとともに、電話により家族の意向を再度聞き直し、新たな具体的且つ詳細なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の身体的精神的な様子や生活状況を個別に介護記録として残し職員間で情報を共有し介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りその方の希望に沿った対応を心がけています。買い物の希望があれば付き添い行ったり隣のユニットでおやつを食べていただくこともあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で難しいことが多いですが区長、民生委員、婦人会長とは時々ですが情報交換行い信頼関係の継続に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族に決定して頂いています。協力病院および個々のかかりつけ医ともに情報交換が出来ており良好な関係にて対応できています。	入居時に協力病院の存在を説明しており、そのまま継続される方、協力病院への変更等本人や家族がかかりつけ医を選択されている。近くの病院をかかりつけ医とされる場合は家族が受診を支援されているが、まん延防止措置期間中は職員が対応している。本人が「安心した病院が良い」との希望には家族が対応されている。歯科は必要時には受診としているが、訪問歯科も検討したいとしている。職員は日々バイタルチェックにより、異常の早期発見に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタル測定を行い様子観察に努めており何か変化みられる時は看護師に相談し早期の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療連携室との情報交換に努め安心して入院できるよう対応しています。尚。病院と連携しできる限り早期の退院を目指し対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当グループホームでできることできないことの説明を行い納得して頂いています。入居後初めて協力病院受診の際は家族に同席していただき主治医と管理者、家族で急変時の対応等の確認をしています。状態変化の際は随時対応しています。	入居時に、医療中心の生活になると対応が難しいこと、及びホームでできること、できないことを説明している。初回の受診時に家族へ主治医から説明してもらっている。、重度化して施設を探すのは難しいとして特養へ入居申し込みをされる方もあり、心身の状況によっては特養や医療機関への入院としている。最高齢なら、これまでと余り変わりの無い生活に職員の適切な介護である事が表出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生の際は事故報告書、インシデントレポート、介護記録をもとに職員で検討情報共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練では地震発生後の火災を想定した昼夜の自主訓練を実施し避難する体制を職員と入居者ともに確認身に着けることができるよう努力しています。緊急時は区長、民生委員、消防団の協力を得ることになっています。	防災計画書のもと避難訓練を実施している。運営推進会議の中で水害を話題として話し合いを行っているが、訓練までには至っていない。ワクチン接種による移動に、かなりの時間を要したことで、有事の際に使用する車種なども計画に入れる必要があるとあらためて認識している。大風接近には早めに食料等を準備し、停電を想定してガスコンロ等を備蓄している。消防署からの点検指導も行われている。	経験された移動の際の乗降に要する時間など、今後もシミュレーションされることで、有事に備えて頂きたい。また、近隣には民家も多くなってきており、近隣住民も巻き込みながら防災訓練を計画し、コロナ感染症の状況次第では、地域住民との合同訓練の開催に向け区長等との話し合いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者本位」尊敬と思いやりの気持ちを忘れない対応を心がけています。「自分がされて嫌なことは相手にもしない」それぞれが考え行動しています。	利用者本位として、起床時間や食事時間など個々に応じて対応している。また、自分に置き換えて、ケアに努めることを共有し、同姓介助を希望される場合には職員を入れ替えて対応している。入居者の尊厳を守ることやプライバシーの確保について“行動指針”の中で明示し、入職時に同意書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を気軽に言えるようその方の気持ちや考え方に共感し尊重した対応と傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応1日の予定はありますが自分のペースで過ごして頂くよう努めています。起床時間、食事時間等もそれぞれでありその方のペースに併せて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の好みに沿えるよう声掛けしながら対応に努めています。自己決定できる方は自分で選ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の暮らしの中で一番の楽しみは食事だと思います。職員も検食行い意見を出し合っています。味や食材の好みには可能な限り対応しています。できるだけ自力で食べていただくよう支援しています。	1ヶ月毎に担当を決め、週ごとに職員と相談し食材を発注している。味噌や醤油等地域の業者とし、入居者に食べたいものを聞き取りしたり、食材を見てもらいながら献立を一緒に立てている。入居者によっては食前の手指の消毒を他の入居者にもして下さる方や、後片付けや食器洗い等に取組まれている。コロナ禍により、職員は検食はするものと一緒に食事は摂らず、入居者への介助や食の進み具合を確認している。恵方巻きや雛祭りではちらし寿司等の行事食や、手作りおやつ等食が暮らしの中での楽しみの一つと捉えて支援している、	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼夜ともに好みに合わせた水分摂取に努めています。尚、一人ひとりに合わせた食事形態にて提供しています。食事が進まないときはその方の好物を提供し栄養管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染はいろいろな病気につながることを職員それぞれが自覚しており毎食後、口腔ケアを行っています。できない事の支援を行っています義歯は毎日夕食後に消毒しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握するため毎日排泄パターンや回数、量をチェックしています。トイレでの一連の動作についてはできない事の支援を行っています。言動やサインを見逃さないよう様子観察に努めています。	入居者の排泄パターンを把握し、時間的は誘導や食前・食後の声掛けを行い、出来ないことのみ手伝うこととしている。また、夜間帯はリハビリパンツからオムツへの変更等昼・夜と使い分けている。排泄用品は家族の持参としてパットの大きさ等家族に情報を発信し適切な用品としている。また、家族が希望されればホームで準備する等柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の処方に頼るだけではなく水分補給に努め野菜など食物繊維をしっかり接種して頂くよう食事の工夫を行っています。毎日体操を行い身体もできるだけ動かして頂くよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を予定に組んでいますがそれぞれのタイミングがあり拒否があるときは時間を空けたり翌日に変更したりその方の意思を優先して対応しています。入浴剤を使い香りや色彩を楽しんで頂いています。	週3回を中心に午前中に支援している。入浴を拒否されても、週1～2回は入ってもらうよう声掛けのタイミング等を工夫し、入浴剤のピンクや紫色に、特別であると喜ばれたり、入居者と職員との1対1の会話の時間として入浴を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて起床、食事、就寝当の時間も臨機応変に対応しています。眠れないときは職員と会話したり温かい飲み物を飲んで頂くなど安心につながるような対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服説明書を職員が確認しやすいように個人ファイルに閉じて保管しており各自把握しています。体調変化がみられる時は主治医や薬剤師にすぐ連絡報告行い連携を図り早めの対応に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみが毎日の日課であり役割になっており競って参加されています。梅干し体操や健康体操、口腔体操で身体全体を動かし唱歌を元気いっぱい大きな声で歌われることが毎日の楽しみであり日課となっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出支援が難しい状況ですが希望がある時は近くのスーパーにて買い物を楽しんで頂けるよう可能な限り支援しています。尚、受診の帰りにドライブを兼ねることもあります。	スーパーへの買い物や受診時にドライブがてらに遠回りをすることもあるが、コロナ禍に外出を控えている現状である。	入居者の中には外出したいとの意欲が見られるものの、外出を控える状況に外出したいとの意欲も徐々に薄れてくると思われる。外出に代るホーム内での楽しみ事に工夫されており、暖かくなってくれば近場での散歩等支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとり小口現金を預かり管理しています。1名だけ自分で管理されている方がいらっしゃいます。月1回の訪問での補聴器点検代を自分で払って頂くよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたら必要に応じて一緒に封を開けて読んで差し上げたり書かれたはがきを投函するなど支援しています。かかってきた電話は取次行い希望にてこちらから電話されることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高気密高断熱、地熱利用の建物でほぼ一年中過ごしやすい室温に保たれています。自然の光の中で過ごせるよう採光に工夫のある明るいイメージの建物です。尚、手作りの壁面飾りにて季節感を出しており入居者の皆様に喜んで頂いております。	一年中過しやすい環境(高気密高断熱、地熱利用)にあるホームでは、騒音や異臭も無く、掃除も行き届いた住環境である。また、職員の得意分野が発揮された住環境は手作り感が溢れ、クリスマスリースやおひな様など水引を使用した作品は季節感を醸しだしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日の暮らしの中でリビングにて過ごされる時間が多くみられます。それぞれの落ち着く場所が決まっております。仲良し同士で会話したりテレビを楽しまれたり思い思いに過ごされています。自室にて昼寝されるなど自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが使い慣れたなじみの物を持参されています。本人が安心して安全に過ごせるよう様子を見ながら筆筒などの配置を決めて対応しています。	入居に当り、他の入居者の居室を遠目から見てもらい、ホーム側があつた方が良い物を提案している。ベッドは設置されており、筆筒や洋服筆筒、テレビ、時計やぬいぐるみ、家族写真等が持ち込まれた部屋等もあり、自分の部屋として昼食後には休息する等自由に使用されている。衣類等の季節入れ替えは家族中心であるが、職員が支援するケースもあり、居心地よく過ごす環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに理解度に差がある為必要に応じてトイレや居室に目印をつけたり誘導したり安心して過ごせるよう工夫しながら対応しています。尚、安心安全に過ごして頂けるよう足元の障害物をできるだけ排除して対応しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム 城南スマイル (にじユニット)		
所在地	熊本裁南区城南町下宮地397-2		
自己評価作成日	令和3年 1月17日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年v3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城の南に位置する事から名づけられた熊本市南区城南町。肥沃な水田地帯と大型スーパーや商店街を有する城南町の中核を担っている隈庄地区の住宅街の一角にある開所9年のグループホームです。地熱を利用した床暖房を完備しており高気密高断熱工法により年間を通して心地よい室温で快適に過ごす事が出来ます。尚、自然の光の中で過ごす事が出来るよう採光にも工夫をした建物になっています。周辺には同法人の地域密着型特養と協力病院があり医療面や緊急時の協力体制が整っています。どなたでも利用しやすいように低額の利用料金の設定を行っており入居者の皆様それぞれが自分の意思で出来る限り自由に過ごされています。グループホーム特有の家庭的な雰囲気作りに努め毎日利用者様、職員の笑顔が絶えない場所になっております。利用者一人ひとりとゆっくりと関わる時間を大切に、その方のできる事、得意ごと等、能力を活かした役割のある生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、職員が常に目に入る所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、町内の班長とし、地域の一員として働きかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、認知症の方との接し方、特徴などの発信を行う努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策にて、資料送付をおこなっている為、行事やサービス内容、日々の様子のご家族、関係者様に伝わりやすい資料に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を、地域の民生委員様や、包括にも送りしている。オンラインでの会議にも積極的に参加し、他事業所、他機関と協力できる環境作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限のないように常日頃からさりげなく見守り、安全確保に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護関連の報道にも目を向け、職員間でなぜそのような虐待が起きるのか、どうすれば予防できたのかを常日頃話し合う機会を設け、職員の意識付けにも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は1名の利用者の方が、成年後見人制度を利用されている為、随時連絡を取り合い協力体制を取らせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族、本人との十分に面談を行い、疑問点、不安ごとの把握に努め、できるだけ、わかりやすく丁寧な説明をすることを心掛けている。安心して、納得した上での入居の手続きをさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員が会話をする時間を多く設け、利用者の意見、要望が話しやすい環境作りに努め、表出ない方にも会話の中から意見や要望を汲み取る努力をしている。現在、感染症対策にご家族が施設へ出向く機会が少なくなっている為、こまめな電話等の連絡で情報交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの場にて、意見やアイデアを言いやすい職場作りを目指している。また、職員と管理者が個別に話をする時間を設け、総合的な悩み意見の把握に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、全職員に自己評価を行い、各自目標、努力点を記載し、達成状況により賞与等に成果ととして反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦の影響で、外部研修の参加ができていない。Ipadの導入をしたため、オンラインでの研修等にも積極的に参加し職員の知識向上にも努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される、地域のグループホーム連絡会へ積極的に参加し、同業者の方々とのネットワーク作りを強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居段階で本人、ご家族と面会、面談を行い、その方の性格や、生活歴等の情報収集に努めている。入居後も利用者、ご家族が施設と話がしやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得されるまで面談を行い、専門用語ではなく、ご家族が安心し、納得できる説明、提案を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が必要とされるサービスの聞き取りを細かく行った上で、その時から、将来までのサービスを視野に入れ、利用者、ご家族が今だけではなく、将来も安心できるような対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな環境作りを心掛け、利用者が毎日穏やかな気持ちで過ごせるような雰囲気作りを目指している。利用者が職員の相談に乗ったりと密な関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限が行われた日常の中で、利用者、ご家族が疎遠にならないように、ご家族へこまめな状態報告を行っている。また、ご家族と、利用者が気楽に電話などが取り次ぎ出来る環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみの友人、知人との関係維持に努め手紙交換などの支援を行っている。外国に住まれている友人からの手紙を楽しみに待っている利用者もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話を楽しめる配置設置を行っている。また、利用者同士での関係も良好で朝、夜の挨拶のハイタッチは日課となっている。また、隣のユニットへ行き来しやすい環境作りに努め、利用者の気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもご家族や、転居へ経過を伺い、必要に応じ情報の共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃、利用者との関わる時間を設け、希望及び意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な場合も利用者の立場になって、一つの考えにならないように、職員全体で考える事を基本としている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時にご家族、関係者から聞き取りを行い、本人からも昔話を傾聴し、施設生活でも、その人らしさが取り組めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から利用者の観察を行い、微少の変化も職員間で申し送り、記録記載と行っている。 また、ケアの変更も職員間でいくつもアイデアを出し合いその人にあつた最善のケアが出来るように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの利用者に関わる時間を多く作り、常日頃の状態観察を行い、本人の思い・意見の汲み取りに努力し、微量の変化もご家族、関係者、職員間で情報共有を行い、その中から意見・アイデアを反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事量・排泄等の身体状況を及び、日々の様子、変化等を記録いつでも職員間で確認ができるようにしている。 業務前には必ず日誌に目を通し、前後の状態把握を各職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行や、通院等、希望・要望に対し柔軟な対応を心掛け、既存のサービスに捉われない様に努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の為、地域の方や慰問の受入が難しくある為、感染状況に応じ近隣への散歩などで地域の方と顔見知りになれる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医のみではなく、本人、ご家族の望まれる病院も選択肢にしている。利用者が適切な医療が受けれるよう、情報共有を密に行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃の状態観察に努め、かかりつけ医に報告や相談を行い、利用者にとって適切な受診、看護が受けれる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、協力機関とは協力体制を滞ることなく関係作りに努めている。入院時に利用者が安心して治療が行えるように、情報共有を密行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、施設で行える支援の説明を行い、ご家族に納得していただいている。ご家族、本人の願望を重々に把握した上で、法人内のサービス等のその方に適切なサービスの提案を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応を常日頃から話し合い、全職員が落ち着き冷静に正確な対応が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間想定した避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個々の人格や性格に合わせた寄り添った言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定を尊重し問いかけるケアを心掛けている。意思疎通が困難な利用者の場合も問いかけ、表情から気持ちをくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の今までの生活歴などを把握し、利用者の希望に沿った暮らしが行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者が多い為、その方の使い慣れた化粧水等を使っていたり、施設でもいつでも使える化粧水などを常備し使っていたりしている。女性利用者は爪のマニキュアをととても楽しみにされている。男性利用者のこまめな髭剃りを行っている。また着用するものを自ら選んでいただけるようにも尊敬している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることの楽しみが失われないように、毎度の食事の彩り、量にもこだわりをもって提供している。職員が利用者へ作り方のコツや手順などを相談し、アドバイスをもらい勉強させてもらっている。テーブル拭き、お茶くみ、片付けを利用者、職員と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた、食事量の調整を行っている。毎食の食事量の確認を行い栄養状態の把握に努め、決まった時間のみではなく、こまめな水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔ケアが不十分にならないように職員が付き添い、声掛け、必要時には介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者が日中はトイレでの排泄を基本としている。排泄チェック表を活かし、利用者の個々の排泄パターンの把握に努め、一定時間での声掛け、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、施設内外への散歩、腹部マッサージなどで便秘予防に努めている。乳製品を摂取してもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に合わせて、拒否のある方はその方の気持ちを尊厳し対応している。入浴が楽しみの一貫となるように入浴剤の使用や、冬至にはゆず湯などを提供し楽しんで頂けるように努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に沿った、休息支援を行っている。安心して過ごせる居室環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書を個々のファイルに綴り、職員全員で共有している。セット時、与薬時には職員2名でダブルチェックを行い、利用者にも名前と日付を読み上げ、確実な内服支援に努めている。5		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のADLに合わせた役割、家事もされている。利用者の趣味や好きなものを日々観察し、活気、刺激のある生活を送っていただけのように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策にて外出支援が困難な為、利用者の気分転換に近場でのドライブ、散歩等の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に合わせ自己管理が可能、不可能な方がいるため、お金の所持を希望せれる場合はご家族より管理者へ報告してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、利用者どちらからも電話ができる環境にしている。自ら、要望することのできない利用者には、職員の方からご家族への電話の提案をおこなっている。年賀状のやり取りも毎年楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1年を通し、季節を味わえる行事を行っている。 共有スペースには利用者と職員で作成した壁紙を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がそれぞれ自由に過ごせるよう、共有スペースにソファ設置、陽の当たる縁側への椅子設置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置いたり、ご家族の写真などを飾り、本人が安らげる環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、トイレや浴室等、表記を行い、利用者のADLに合わせ対応をしている。場所を理解し自立されてる方も多くいる。		